

令和 7 年度

第 2 回東京都渋滞対策推進会議
幹事会

令和 7 年 10 月 24 日（金）

都庁第一本庁舎 34 階
都民安全総合対策本部 34B 会議室

午後3時00分 開会

○事務局員（和田課長代理）

お時間となりましたので、開始したいと思います。

本日も大変お忙しい中、ご参加いただきまして、ありがとうございます。これより、令和7年度第2回東京都渋滞対策推進会議幹事会を開催したいと思います。本日の司会を務めさせていただきます、東京都都民安全総合対策本部の和田です。本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

なお、いつものお願いになってしまいますが、開催に先立ちまして、注意事項を2点ほど申し上げます。

まず1点目、会議につきましては、発言をする場合を除いて、マイクをオフにしていただきまして、発言の際は、挙手機能にてお知らせください。私のほうで指名させていただきますので、その際にマイクをオンにして、ご発言のほどよろしくお願ひいたします。

次に2点目になります。この会議につきましては、議事録作成のためにTeamsの機能を使ってレコーディングと文字起こしをしたいと思います。あらかじめご了承ください。

それでは、会議に入ります前に、幹事会の座長を務めます東京都都民安全総合対策本部交通安全担当課長の三浦より、ご挨拶を申し上げます。よろしくお願ひいたします。

○都民安全総合対策本部 総合推進部 三浦交通安全担当課長

東京都都民安全総合対策本部交通安全担当課長の三浦と申します。本日はお忙しい中ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

本年5月に実施いたしました推進会議におきましては、本年度における各局の事業計画を伺いまして、本日に至るまでの間、皆様が各自で取組を実施してい

ただいでいることに感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、今回の幹事会におきましては、2つの内容について情報共有したいと考えています。

まず1点目は、東京都の普及啓発活動につきまして、渋滞緩和に向けた広報活動に関するご報告をさせていただきたく存じます。

2点目は、今年度に実施いたしましたドライバーに対する運転行動・意識調査の結果についてご報告いたします。皆様方の、渋滞対策の参考にしていただければ幸いです。

今年度も後半になりましたけれども、本日の会議等を有効活用いたしまして、皆様方のご意見をいただきながら対策を行っていきたいと考えてございます。引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願ひいたします。

○事務局員（和田課長代理）

ありがとうございました。それでは、会議のほうに移らせていただきます。

まず初めに、東京都の普及啓発活動につきまして、3点報告をいたします。

都民安全総合対策本部の坂本課長、どうぞよろしくお願ひいたします。

○都民安全総合対策本部 総合推進部 坂本交通安全対策担当課長

都民安全総合対策本部の坂本でございます。本日は、議会中のお忙しい中ご参加いただきありがとうございます。では、東京都の普及啓発活動について、現時点の報告をいたします。まず、啓発の強化期間でございました、9月の取組結果について報告いたします。

1点目はスムーズ運転シミュレータの活用についてでございます。今、表示されているスライドは、9月のプレス発表資料でございますが、この左側に記載がございます、各種イベントに参加いたしまして、スムーズ運転シミュレータを出展し、車間距離の確保やブレーキ操作等の渋滞緩和につながる運転方法

を来場者の方に体験していただきました。このイベントの詳細についてですが、資料にもございます通り、9月14日には代々木公園で行われましたトラックフェスタTOKYO2025、20日には三鷹市の中央防災公園にあります、元気創造プラザ内で行われました三鷹秋の交通安全フェスタ、23日には、光が丘駅の直近にございます、IMAという商業施設で行われた「被ろうヘルメット・守ろう命」キャンペーンの3つのイベントに出展してまいりました。各イベントにおきまして、このシミュレータ体験は大変好評を得まして、大勢の方に体験していただきました。特に、代々木公園でのトラックフェスタにおいては、本当に朝から夕方まで、体験者が一時も途切れることはございませんでした。また、各イベントにおきまして、シミュレータ体験された方に実施後にアンケートに答えていただきまして、これを体験したこと、渋滞緩和につながる運転方法を実践しようと思いませんかといったことを、アンケートで聞いてみました。その結果なのですが、渋滞緩和につながる運転方法を実施しようと思うと回答してくれた方が、代々木公園のトラックフェスタで約9割、三鷹の交通安全フェスタで約8割、光が丘のキャンペーンのほうは、なんと全員が実践しようと思うと回答いただきまして、非常に関心と効果の高さを実感したところでございます。

この代々木公園で行われましたトラックフェスタに関しましては、環境局様にご協力を得たことで実施することができました。この場を借りて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

次に9月の取組の2点目でございますが、スライドの右上になります、スマート経路検索サイトの広告についてでございます。こちらについては、9月5日から9月26日までの間、ナビタイムのスマート向け自動車ルート検索サイトで、東京都内の出発に指定して経路検索をすると、メッセージが表示されるようく設定して広告を出稿しまして、表示されたバナーなどをクリックすると、東京都の渋滞対策のWebサイトに誘導するというものでございます。この結果

のレポートを確認しますと、3週間で6,300弱というアクセスということで、予定を若干上回る結果を得ております。実は、この9月に強化月間にしているということは、行楽シーズンということで、一般ドライバーで経路検索する人が多いのではないかとの予測のもと行ったので、休日や休日の前とかに多くなることを予測していたのですけれども、結果的には、平日と休日で極端な数字の違いというのはございませんでしたので、結構、ならしてアクセスされていたということになっております。その理由は推測するしかないのですが、出発直前に経路や渋滞しているかどうかを調べるような人は、結果を見て、それに続いてバナーをチェックして渋滞を緩和する運転方法などを調べるというのは、あまり時間的余裕が無いのかなということも、予想されます。

最後に、9月の取組の3点目ですけれども、スライドの右下にございますが、道路上の情報板での呼びかけについてでございます。これも毎年のことですが、9月15日から30日までの間で、建設局様、警視庁様が所有する情報案内板を活用いたしまして、道路上での呼びかけを実施いたしました。これも、関係者の皆様にご協力いただきましてできたことでございます。ありがとうございました。

以上、3点の報告となります。またこれからも、年末年度末に向けて渋滞悪化していくところなので、普及啓発活動を実施しまして、予定では、11月末にまた同じようにプレス発表をして、年末、年度末についての普及啓発活動を継続していきたいと思っております。引き続きご協力のほどよろしくお願ひいたします。

○事務局員（和田課長代理）

坂本課長どうもありがとうございました。ここまで東京都の普及啓発活動に関する報告でございました。本件内容につきまして、何かお聞きになりたいございましたら、挙手機能によりお知らせください。

皆様いかがでしょうか？

○警視庁交通部 交通管制課 児玉管理官

すみません。

○事務局員（和田課長代理）

児玉管理官、お願いします。

○警視庁交通部 交通管制課 児玉管理官

警視庁の児玉です。渋滞を減らす行動3箇条なのですが、シミュレーションで利用者に呼びかけをする際に、スムーズ運転というものが渋滞緩和に当然寄与するのですけれども、ドライバーは燃費走行も気になるのかなと思っています。その上で、渋滞を減らす行動だけを強く出しているのか、それとも、副次的にエコドライブなども合わせて広報されているのかどうなのかを確認したいです。

○都民安全総合対策本部 総合推進部 坂本交通安全対策担当課長

ありがとうございます。今回、イベントではポイントを絞りまして、渋滞緩和に向けた5つの運転方法を中心にシミュレータの順番待ちの間に説明をしました。ただ、配布しているリーフレットには、「渋滞緩和はCO₂排出量削減にもつながります」と、エコ運転のことも書いた啓発物を配っているので、シミュレータ自体は、エコドライブができているかどうかの判定するころは活用していないのですが、啓発物のほうで目に触れるようにしている状況です。

○警視庁交通部 交通管制課 児玉管理官

分かりました。ありがとうございます。

○事務局員（和田課長代理）

そのほか、皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら、次にドライバーに対する運転行動・意識調査についての報告となります。それでは引き続き、都民安全総合対策本部の坂本課長、よろしくお願ひいたします。

○都民安全総合対策本部 総合推進部 坂本交通安全対策担当課長

はい、続きまして説明させていただきます。この調査は2年ごとにやっていける調査で、今回、基本的には令和5年度と比較できる内容について、ご回答をいたしております。全体で2,300サンプルアンケート対象の方にご回答いただいている調査になっております。

まず1点目ですけれども、渋滞の原因に関する意識調査です。日々行っているものなのですが、渋滞の原因は何だと思うかと率直に聞いているものでして、一般ドライバーに対するものと、業務ドライバーに対するものと、基本的にはこの2つで分けております。今映っているのが、一般ドライバーに対する結果ですけれども、こちらは、令和5年度と今年度とほぼトップは変わらず、都内を走行する車両が多いと、車が多いから渋滞しているんだという回答になっております。こちらが一番ということは変わりなかったのですが、比較的今年度は、その回答率が高くなっているという状況になっております。

次点としては、先ほど言いました、我々が啓発している渋滞を減らす行動3箇条にも挙げているのですけど、駐車車両に関する意識というものが次に続いているという状況になっております。

次のスライドが業務ドライバーの方です。業務ドライバーについても、令和5年、令和7年とともに、都内を走行する車両が多い、車が多いから渋滞しているのではないかという結果は、変わりはありませんでした。比較的に、若干一般ドライバーに比べると、道路工事が多いとか、駐車車両が多いというポイ

ントが高くなっています。これは普段から車を運転しているので、そういう状況が把握できているということが結果につながっているのかもしれません。

続きまして、次のポイントですけれども、渋滞緩和につながる行動の認知度に関する意識調査です。これは2年前に調査していなかったので、今年初めてやったのですが、内容といたしましては、率直に私どもで訴えている渋滞を減らす行動3箇条について、どのくらい認知されているかということを聞いたところです。この認知度としては、一般ドライバーも業務ドライバーも、やはり道路上で迷惑駐車しないという、路上駐車に関する項目というのが一番高かったです。他の項目を見ても、大体6割以上認知されているということで、なんとなく常識的な項目ではあるのですけれども、ドライバーとしては、これらの行動をすると渋滞が緩和されるということに繋がるということは、頭にあると考えることができます。

続きまして、頭では分かっているけど、どれだけ実践できているのかといった結果ですけれども、これについては、一番実践しているのが、路上駐車、道路上で迷惑駐車しないに関するものが、一般ドライバーも業務ドライバーも一番多かったという結果になっております。反対に一番低いのが、交通情報を確認して公共機関も賢く活用するということについては、なかなか実践することが難しいのかなと考えさせられる数字になっております。特に業務ドライバーについては、仕事の都合で、そういうことも言っていられないんだということなのか、約半分という回答になっております。

次の、3点目ですけれども、この3箇条からさらにブレイクダウンしますて、渋滞緩和に資すると言われている運転方法や行動の実践度、5つあるのですけれど、これについて1個1個聞いてみたところです。これも同じく左が一般ドライバーで、右が業務ドライバーということで、青系が実践しているグラフになります。これも、先ほどの項目も同じなのですけれども、Web調査とな

りまして、右下に注が書いてあるんですけれども、質問内容や回答方法に若干令和5年との差異が出ているため、比較できるように補正をしているので、厳密な比較ではないため、全部上がっているというのが、100%信じていいものでもないのですけれども、参考になると思い載せております。

まず今映っている資料でクルーズ走行につきましては、一般が36%の増、業務ドライバーについても19%の増と、それぞれ上がっておりまます。

次に、スローアイン・ファストアウトなのですけれども、これについても、一般ドライバーで30%、業務ドライバーで14%と、クルーズ走行に次ぐくらいの上昇をしております。実践されているということでしょうか。

次に、車間距離を広めにとるにつきましては、一般でも20%増で、かなり率が上がっており、業務ドライバーにつきましても、同じくらいの増加傾向にあるということになっております。

早めの合図につきましても、大体20%近く、両方上がっているという結果になっております。

最後、むやみにブレーキングをしないにつきましても、ほぼ20%弱ずつくらい上がっているという結果になっております。大体ほぼ同じような形の上がり方ですけれども、これも5つの運転方法全体的に見ると、一般ドライバーの上がり幅が業務ドライバーよりも多かった、元々伸びしろがあったというところもあるかもしれないですが、このような形でした。

やはり、この2年間で上昇しているのは、クルーズ走行とか、スローアイン・ファストアウトですね。ブレーキ・アクセル系に関することやスピードに関することが、割と実践率が上がっているのかなということになっております。

次はですね、渋滞に関する情報をどこから得ているのかという、情報の入手先についてです。これも左が一般ドライバー、右が業務ドライバーで、これにつきましても、左の水色の棒グラフが前回の令和5年度、青が今回の令和7年度の結果になっております。これを見ますと、前回については、両方ともカ一

ナビからの入手が、ダントツに高かったのですけれど、今年度はもう、Web ツールが逆にダントツに高くなっているという、大きな差が出たというのが印象的な結果になっております。

全体を総合的に見てみると、渋滞の原因に関する意識につきましては、都内を走行する車両が多い、車が多いから渋滞するんだという意識を持っているドライバーが多かったのですけれど、この点について対策するのは難しいと思うのですけれど、そういったことを意識してやっていくことが必要になってくるかなと思います。他にも、道路工事とか駐車車両についてもやっぱり気にされているところが多いので、引き続き迷惑駐車をしないといった広報は、継続していくべきと思っております。

次に渋滞緩和につながる行動につきましては、やはり、一番課題になるのが事前に交通情報を確認して、場合によっては車じゃなくて公共交通機関を活用していくということが、なかなか実践するのが難しいということが分かる結果になっております。極端な話、この項目の実践率が上がれば、マイカーを使わずに公共交通機関を活用するので、都内を走行する車両も少なくなるということなので、こういった点は難しいのは重々承知の上で、引き続き訴えていく必要があるのかなと思っています。

次、5つの運転方法です。渋滞緩和に資すると言われている運転方法や行動につきましても、令和5年と令和7年とを比較すると、全ての項目で実践率が上がっているので、引き続きこの実践率を下げないように、啓発は続けていかなくてはならないかなと、考えているところでございます。

最後、今映っている資料では、やはり Web ツールへの意識が高くなっているという結果だったので、それに答えるために、普及啓発もそうですけれども、例えば、Xなどの Web を活用した広報を、渋滞が多くなる時期に行っていきたいと思っております。

以上で、ドライバーに対する運転行動・意識調査に関する結果の報告を終わ

りにさせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

○事務局員（和田課長代理）

坂本課長、ありがとうございました。以上で、今回の会議で全てのご報告が終了となります、全体を通して、何かご質問などはございませんでしょうか。皆様いかがでしょうか。

この場を通して、今回の会議だけではなく、何か情報共有しておきたいことでも何でも結構ですけれども、何かありましたら挙手していただければと思うのですけども、いかがでしょうか。皆様よろしいでしょうか。

そうしましたら、以上で、令和7年度第2回東京都渋滞対策推進会議幹事会を終了といたします。

本日は、お時間の無い中色々とありがとうございました。

午後3時35分　閉会